

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 マガレイ

学名 *Pleuronectes herzensteini*

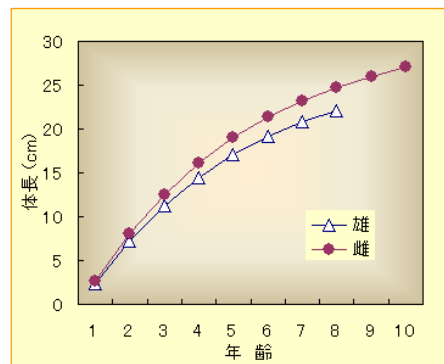
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特徴

寿命： 雌10歳、雄8歳
成熟開始年齢： 雌3歳、雄2歳
産卵期・産卵場： 新潟県沿岸で2～5月(3～4月が盛期)、産卵場は水深50～90m付近
索餌期・索餌場： 夏～秋季に沖合の陸棚上
食性： 多毛類、二枚貝、小型甲殻類
捕食者： 不明

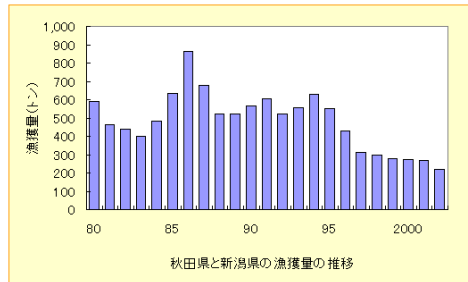
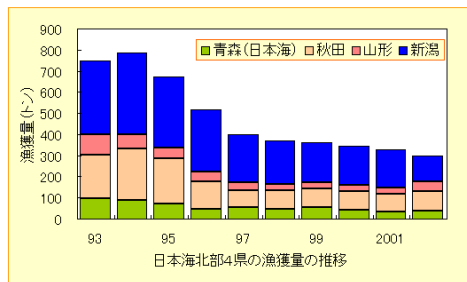


漁業の特徴

日本海北部でマガレイを対象としている主要漁業は、底びき網漁業と刺し網漁業である。その比率は、漁獲量（2002年）で見ると底びき網漁業で66%、刺し網で29%と全体の95%を占め、その他が5%程度である。また県別にみると新潟県と秋田県の占める割合が大きい。

漁獲の動向

日本海北部で漁獲量の殆どを占める新潟、山形、秋田及び青森県の漁獲量が把握されたのは1993年以降に限られる。そこで比較的長期的な資料が整備されている新潟県と秋田県の漁獲量の推移をみると、1986年と1994年に漁獲量のピークが見られるものの、1995～1997年に大幅に減少した。その後ゆるやかに減少傾向が続いているが、2002年の漁獲量の減少は大きく、2001年の10%減であった。

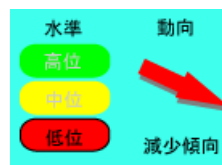


資源評価法

マガレイは農林統計の全国集計対象種でないので、系群全体の漁獲量を正確に把握する統計が無い。したがって、日本海北部の漁獲量の殆どを占める青森、秋田、山形、新潟4県の漁獲量の経年変化を用いて資源の評価を行なった。

資源状態

新潟県と秋田県の2002年の漁獲量は、資料がある1980年以降最低である。同様に北部4県の2002年の漁獲量も資料がある1993年以降の最低であることから、資源水準は低位と判断される。また近年の漁獲量は減少傾向を示していることから、資源動向は減少傾向と判断される。1984年と1995年には漁獲加入前の0歳魚の密度が極めて高かったという情報がある。この加入群と、その後の漁獲量の推移からみて漁獲努力量は過剰と推測される。



管理方策

資源は低位、減少傾向と判断されることから、マガレイ資源を適切な水準に回復、維持するためには現状の漁獲努力量を低下させる必要があり、漁獲努力量の削減による資源の回復を目標とする。近年の漁獲量は1998年以降比較的ゆるやかに減少し、この間の毎年の減少率は約5%である。そこで、直近3年の平均漁獲量324トンに0.8を乗じてABClimitとし、これに安全率0.8を乗じてABCtargetとした。なお、水産庁では2003年7月に日本海北部のマガレイを対象とした。減船、休漁、保護区の設定などによる「資源回復計画」を作成した。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	260トン	0.8Cave3-yr	-	-
A B C target	210トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲量の推移から、資源水準は低位、動向は減少傾向と判断される
- 漁獲量の推移と加入群の情報から、漁獲努力量は過剰と推測される

資源管理方策のまとめ

- 資源水準の回復のためには漁獲努力量の削減が必要
- 水産庁では2003年7月に「資源回復計画」を作成

資源評価は毎年更新されます。